



気持ちのよい芝生が広がるセンターコートには、約150人の住人が集まった。ゴスペルの歌声に踊り出す人も。



玉ねぎ大豊作！ 150人の 家庭菜園。

第24回 コンシェルジュ

グランドメゾン伊丹池尻
リテラシテイのみなさん

住人たちが植えた玉ねぎを収穫し、
カレーをつくって一緒に食べる隣人祭り。

多くの家族が集まって暮らすマンションで、子どもからお年寄りまで
幅広い世代が集まったからこそ、
見えてきたご近所つきあいの課題があります。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Yasuko Murata

屋上で育った
玉ねぎ、
食べごろです！



大きな鍋で玉ねぎが炒められ、香ばしい匂いが漂いはじめ。この日、コモンガーデンと呼ばれる屋上庭園で玉ねぎの収穫祭が行われ、カレーをつくって食べる「隣人祭り」が開かれたのは、兵庫県伊丹市にある「グランドメゾン伊丹池尻リテラシテイ」。コモンガーデンには住人が共有する60

個の菜園ボックスがあり、分譲間もない昨秋、分譲販売を行う積水ハウスの協力で、玉ねぎの植え付けを住人たちが行った。今回の隣人祭りは、発足したばかりの管理組合が中心となり、アイディアを出し合い、収穫後の菜園ボックスに夏野菜を植え、ゴスペルのコンサートなども開催することになった



Lohas Club

Since 2004

SOTOKOTO September 2010 134



大きなお鍋でカレーをつくらう！

た。
300戸を超える大規模集合住宅とあって、参加者も150人以上と予想されたが、管理組合のスタッフは「事前に出席を取らない」ことにこだわった。「敷居を低くして、気軽に参加してもらえるように配慮しました。最初から成功しなくても、だんだん広がっていけばいいかなと思っています」と話す副理事長の竹安将人さんだが、150人分のカレーをつくる段取りはなかなか大変そう。

当日は「コモンガーデンで数日前から声をかけたり、ママ同士の口コミで集まった」という10家族ほどのボランティアが調理を担当した。調理に参加した高橋洋介さんは「前日に野菜の下準備をしました。パパや子どもたちにも手伝ってもらい、今後もっと多くの住人の方と調理をする際のコミュニケーションをしてみました。やってみると子どもが刃物を持つのは危ないなどの課題も出てきて、まだまだ話し合いが必

要です」。

予想外に野菜が煮えず、苦勞の末にカレーが完成すると、大豊作の玉ねぎ収穫でお腹を空かせた住人たちが一斉に「いただきます！」。参加者は子育て世代が多いが、60〜70代の方の姿も見える。管理組合理事長の茂久田彰さんは、ご自身も67歳。「住人全員を巻き込んで、ヒューマンなコミュニティをつくりたい」と話しながら高齢者の方々に気にかけている様子。「若い世代はいいけど、50代以上になるとなかなかこういう場に出て来られないもの。隣人祭りを2回、3回と開催し、繰り返し語りかけて、たくさんの高齢者の参加につなげたい。いずれここでも多くの人が老人になりますから、数十年かけてコミュニティの地下をつくっていきたいですね」。

親子ほど歳の離れたご近所さんが、楽しみに会話する姿も見られた。茂久田さんの思いは、少しずつ住人たちの心に伝わり始めているようだ。



上／子どもたちと交流する管理組合理事長の茂久田さん(右)。幅広い世代が集まるコミュニティでは、子どもと高齢者のつながりも。中下／敷地内にセキュリティに守られた森が点在する「グランドメゾン伊丹池尻 リテラシティ」には、カフェラウンジやキッズルームなど、コミュニティ設備も充実。



上／屋上の「コモンガーデン」では、菜園ボックスで野菜を栽培。住人の手により定期的に収穫や苗の植え替えが行われている。秋に苗を植えた玉ねぎは大豊作。収穫後には大きな鍋でカレーづくりがスタート。150人分のカレーは迫り満点。右下／時間がかかったけど、無事にカレーが完成。左下／後半はゴスペルのコンサートで盛り上がった。

la fête des voisins 隣人祭り

水清き国分寺で、 地元農家さんと一緒に隣人祭り!

武蔵野の豊かな自然が広がる東京・国分寺。ここで地元の農家さんでの収穫体験&料理、野菜の朝市&交流会の隣人祭りが開催されました。地元の自然を楽しみつくす楽しい企画、報告をお楽しみに!

コンシェルジュ募集中!

「隣人祭り」日本支部

〒104-0045
東京都中央区築地7-12-7築地FTSビル5階
一般社団法人人口ハスクラブ内
tel.03-3549-1865
fax.03-3549-1013
<http://www.rinjinmatsuri.jp/>